

平成 29 年度

淀川河川公園上流域地域協議会 会議録

上流域版（八幡市、大山崎市・島本町域）平成 29 年 11 月 22 日開催分

■開催概要

開催日時:平成 29年11月22日(水) 10:00~12:00 場 所:淀川三川合流域さくらであい館 淀

議事次第

1. 開 会
2. 出席者紹介
3. 議 事
 - (1) 淀川河川公園地域協議会について
 - (2) 他の地域協議会における検討状況について
 - (3) 御幸橋野草地区(仮称)の公園整備について
 - (4) 台風 21 号の上流域の被災状況について
4. 今後の予定
5. 閉 会

配布資料(一覧)

- ・議事次第
- ・出席者名簿
- ・座席表
- ・淀川河川公園上流域地域協議会設置要綱・委員名簿
- ・資料-1(1) 淀川河川公園地域協議会について
 - (2) 他の地域協議会における検討状況について
- ・資料-2(3) 御幸崎野草地区(仮称)の公園整備について
- ・資料-3 御幸崎野草地区(仮称)公園整備計画(案)

(参考資料)

- ・参考資料-1 平成 27 年度 上流域地域協議会資料
- ・参考資料-2 平成 27 年度 上流域地域協議会会議録

(その他資料)

- ・台風 21 号の上流域の被災状況について
- ・橋本地区のクスノキの移植について

1. 淀川河川公園地域協議会について

- ・事務局より、資料説明があった。

2. 他の地域協議会における検討状況について

- ・事務局より、資料説明があった。

①淀川河川公園地域協議会について

[地域住民代表]

- ・川に近く、水害に対して神経質である地区に住んでおり、特に最近、豪雨が降り注意している。

[事務局]

- ・河川事務所は川の水を安全に流下させる役目があり、治水は河川事業として行っている。河川公園の役割は多くの人に川のある場を見て頂くことである。レクリエーションの場や日常の川を見ることで防災意識も高まる。よって地域協議会では、川に人が来てもらうための整備手法について率直なご意見を頂きたい。

[学識者委員]

- ・特に上流域のテーマである「施設活用」についてご意見を頂きたい。



②上流域の利活用について

[行政]

- ・上流域の整備を進めて頂きたい。行政としては国に上流域の予算確保を要望しているのが現状であり、予算確保の上、計画に基づいて進めて頂きたい。

[学識者委員]

- ・現実的な意見を伺った。何をやるにしても予算は必要である。

[行政]

- ・中下流域に比べて上流域は比較的、施設整備を行いやすい環境である一方、保全の意見も強い。地域の方が河川をどのように考えているのか、ご意見を頂きたい。

[学識者委員]

- ・施設の利活用方法は全流域の共通課題である。上流域ではさくらであい館があることのほか、他の流域に比べて自然が多く複雑な地形をしている。施設と公園のバランスは議論されてきた経緯があることから、本整備計画で考え方がまとまれば良い。

[利用者代表]

- ・上流域は特に地域振興が議題となっている。満喫プランのようなプログラムを今後も継続していくためには、利用者だけではなくプログラムを運営する新たな参加者が必要である。若者の参加を上手く取り入れると新しいモノが生み出され参加者が広範囲に広がるのではないかと。コスト面を考慮しながら、さくらであい館の夜間開館を行い、地域住民の利用を高め、プログラムを生み出す取組みができればいい。平日でも周辺地域の商品を販売すると、購買活動に繋がるほか、本店に行ってみようという周遊促進に繋がる可能性があるため、おしゃれな自販機を設定してはどうか。

[学識者委員]

- ・地域振興、ビジネスの拠点、夜間開館、人が集まりさらに人が周遊することが望ましいという意見が挙げられた。

[学識者委員]

- ・住民の水防に関する危機意識と、利活用したい行政側の意見が長年議論されてきた。少子高齢化が進む中、施設の必要性が問われている。世の中が変化してきた中で、河川公園を陳情して整備するのは良いが、先を見据えた整備が必要である。

[学識者委員]

- ・本質的な問題は大きな問題として背景にある。

3. 御幸橋野草地区（仮称）の公園整備について

- ・事務局より、資料説明があった。

①砂洲状況の確認

[地域住民代表]

- ・資料2(p.11)と資料3(p.3)の写真で砂洲の状況が異なるため、撮影時期を教えてください。雨の降った際の冠水域と水量も分かれば教えてください。

[事務局]

- ・資料2の写真の撮影時期は平成 25 年の大きな台風が来た後の写真である。数年間はこの状態で安定していたが、先日の台風によって、今は少し変わっている状況である。

②今回の計画について

[事務局]

- ・今回の計画案は前回から2点ブラッシュアップを図っている。1点目は広場・駐車場を3箇所程度配置する予定だったが、特に利用が重視されるであろう1ヶ所に絞った。2点目は、三川が合流し水辺に非常に親しみやすい特性を踏まえ、水に親しめる場所にするための休憩所やアクセスなどの支援機能のために広場や駐車場を設定している点である。対岸の景色が良く見えるのも特徴の1つのため、その場所へ行きたくなる動機づけにつなげるためビューポイントを設定している。

[行政]

- ・八幡市は水害のまちだと言われ、御幸橋の上流側を検討してきた経緯がある。水辺に親しみやすい場所にするというのはよいが、水の流れが以前より少なくなり、土がたまり野草も生えてきた中で、まず河川の流下能力を確認して頂きたい。沿川市町の方々は河川そのものの機能の確保を気にしている。橋本駅から木津川までのアクセス道路は今年の春に開通したが、一旦野草地区に入ると八幡市駅やさくらであい館までかなりの距離があり、野草地区からどこへ行くのかが課題である。今のさくらであい館の状況を見ると自転車利用者が多いので、自転車も通過できる工夫が必要である。安全性を考慮し、自転車路・歩行者路を分けると利活用も増えるのではないかと。「川で安全に」ということは大事ではあるが、少し危険なことも感じられると、より楽しいのではないかと。できるだけ川辺に近い所に芝生グラウンドのようなものがあれば、人は集まるのではないかと。

[学識者委員]

- ・流下能力確保の問題、自転車路、自然そのものを楽しめる体験プログラム、広場での芝生整備の4点質問があったため、事務

局より回答頂く。

[事務局]

- ・1点目の流下能力については、河川敷に公園を設置する際、河川の流下能力を守った上で設置するというのが基本的な占用の基準になっているため、公園ができ樹木が生えたら流下しないという管理は行わない。2点目の自転車路については、自転車の利用がとて多いと感じており、さくらであい館でも自転車のスタンドの増設や自転車の修理キットの貸し出しなどの施策は打っている。自転車利用者も眺めのいいところを走ると大変喜ばれることが予想されるため、自転車利用者と共存できるものと考えていきたい。3点目の自然の中で危険を感じる体験については、今、川の中に入れるというところが少ないことが大きな課題になっていることから川岸に近寄りやすい形をつくることを考えている。砂州が移りやすいことや、自然を大事にするという位置づけの地区になっているため、整備としては歩いて比較的下りやすい形状に土地を成形するイメージである。4点目の広場については、御幸橋野草地区は基本的にあまり施設をつくらない位置づけである。ただ、自然だけでは自然を楽しめないため快適に過ごせる空間は必要である。規模は基本計画の考え方に示されているものと整合をとる必要がある。

③さくらまつりについて

[地域住民代表]

- ・さくらの時期は交通渋滞が起きているため、近隣住民は外へ出ることが出来ず困っている。何か解消する方法はないか。

[学識者委員]

- ・市民や周辺の方々には野草地区の利用について意見はあるのか。

[地域住民代表]

- ・昔に水泳場があった程度で特に何も意見は聞いていない。今は草が生えている為どこにもいけないが、昔は砂洲だけであった。

[学識者委員]

- ・また砂洲の所にアプローチできるようになれば良い。

[行政]

- ・御幸橋の渋滞は、さくらまつりが出来たところから渋滞しているのか、京都競馬場ができてから渋滞しているのか。

[地域住民代表]

- ・さくらまつりからである。

[学識者委員]

- ・競馬場へ向かう車は減っている。

[行政]

- ・さくらであい館への来館者は4月で60万人だったため、さらに駐車スペースを確保すべきではないか。交差点に駐車場の入口があるために余計に渋滞している。そのため、車両を駐車場の中に入れる工夫をすれば、御幸橋の渋滞もなくなり近隣住民にとっても良いと思うが、さくらであい館に駐車スペースを確保するのが困難であれば、御幸橋野草地区の駐車場スペースをより広くすれば良いのではないか。

[学識者委員]

- ・それは木津川河川保全利用委員会の立場からは賛成できない。

[事務局]

- ・相当な台数の車両が来るため、全てを受け止めきることは出来ないことから公共交通での来園を推奨し、駐車をさせない方向で検討をしている。

④公園整備内容について

[利用者代表]

- ・来園者がシートを敷いて座りたいと思える場所にする程度の整備も1つではないか。ビューポイントの設置の他、さくらであい館に綺麗なトイレやインフォメーションがあるという紹介があればより良い。また、生物を重点とした植生管理を行っている点など、本協議会や河川管理者が工夫している箇所もビューポイントのサインに加えれば、来園者にも分かりやすいのではないか。

[学識者委員]

- ・実際の利用に関してご意見を頂いた。事務局から意見はあるか。

[事務局]

- ・1点目の広場の整備については、なるべくローコストで整備できるよう検討している。他地区では草刈りの頻度を変えるなど、適切なコストを検討している。レジャーシートを敷いて座れる空間があると公園は使いやすい。ただ、管理の面で芝生にする可能性については今後の検討課題である。2点目のサインについては、今のところ見える風景と観光地の紹介を想定していたが、地区の管理上の工夫点が分かると事業アピールにもつながるため、掲載することも検討していきたい。

[行政]

- ・さくらであい館は大山崎町、島本町、八幡市の結節点になっている。島本町・大山崎と橋本側のビュースポット予定地あたりが山崎～橋本の渡しがあった位置であるため、山崎の渡しを復活して頂けると良い。そのために、都市公園として整備している島本町と動線を上手くつなげば、公共交通の利用や徒歩により、周遊できる仕組みになるのではないか。

〔行政〕

- ・賛同する。舟運で御幸橋から島本町をつなぐルートを設定し、島本町の良い所も見て頂きたい。ただ、島本町の河川の水深が浅いと聞いているため心配しているが、基本的には周遊させて少しでも島本町も賑わうような観光政策をお願いできればありがたい。

〔事務局〕

- ・木津川はとて浅いため動力船は難しいが、ゴムボートの体験乗船であれば参加者の満足度は高い。渡しなら御幸橋付近を出発点とし大山崎町もしくは島本町が終着点になると考えられるが、そのような企画を一緒に考えることができればありがたい。

〔学識者委員〕

- ・淀川の水運を取り戻そうというイベントを行っており、八軒屋浜のある天満橋から桜堤にゴムボートで来るということを行っている。この場所は重要なポイントであることから是非、ゴムボートでもつないで頂きたい。下流では、くわらんか舟のある枚方が船宿も整備されていることから、できれば上流の伏見までつなぎ、淀川水系全体が復活する取組みに是非地元の方にもご協力頂きたい。

〔行政〕

- ・山崎～橋本の渡しがあった地点が野草地区の区域内になるので、計画に渡しの取り込みの検討を要望したい。また、先ほど挙げた三川合流域の土砂堆積による河川の流化能力について不安だという意見について、京都府は御幸橋を架設したことから河川計画定規断面に余裕があり、現状の土砂堆積では支障ないと承知はしているが、ただ中木、高木は流下を阻害する恐れもあるため、維持管理しておく必要がある。三川地域の整備など、行うべきことが複数ある中で御幸橋野草地区が取り上げられるということは、今後 10 年である程度整備を進める計画だと思うが、御幸橋野草地区、大山崎町の淀川河川公園と大山崎町が管理している河川公園の間が抜けており、一体利用できるよう進めて頂きたい。

〔学識者委員〕

- ・以前の計画を見直した新しい御幸橋野草地区整備計画についてご賛同いただけるか。ただ今の計画から頂いた意見を検討し修正を行うため、公園整備計画についてはご承認頂いたということにする。

(一同了承)

4. 台風 21 号の上流域の被災状況について

- ・事務局より、資料説明があった。

5. その他 橋本地区のクスノキの移植について

- ・事務局より、資料説明があった。

【お問い合わせ先】

近畿地方整備局 淀川河川事務所 河川公園課
〒573-1191 大阪府枚方市新町 2 丁目 2 番 10 号
TEL:072-843-2861(代) FAX:072-843-0910 E-mail: yodogawa-kouen@kkr.mlit.go.jp

当日配布した資料などは、下記 Web サイトにて、公表しています。詳細は、Web サイトを参照願います。

→ http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/activity/comit/park_kyoug/index.html

2018 年 1 月発行

平成 29 年度

淀川河川公園上流域地域協議会 会議録

上流域版(八幡市・大山崎・島本町域)平成 29 年 11 月 22 日